



次回のこの欄に登場するのは、あなたかも？
身近なニュース、まちの話題などをお知らせください
☎情報政策課広報係 ☎22-1411 (内線431)

回転する台の上で形を整えます



▶ マリアさん



◀ 絵付けをするマリアさんとミドリちゃん

「焼き上がりが楽しみですー信楽で陶器づくり体験」

マリア・バスケスさん（小泉町）

私はペルーから日本に来て5年ほどになります。ずっと彦根に住んでいます。仕事が忙しくてあちこちまわることがなく、滋賀県のこともよく分かりません。「日本文化体験バスツアー」に参加して、初めて信楽が陶器の産地として有名ということを知りました。親せきの一人が、ペルーで陶器を作る仕事をしていて、その作業場を見せてもらったことがあるので、陶器づくりには少し関心があります。「ポルトガル語版広報ひこね」で彦根市国際協会が陶器作り体験のバスツアーの参加者を募集しているのを知って、家族や近くに暮らす親せき8人で参加しました。3月9日の当日は、日本人のほか、ブラジルや中国、

ベトナムなどいろいろな国籍の参加者が集まりました。バスで信楽の陶器のお店に行き、午前中は陶器づくり、午後は素焼きの器への絵付けの体験をしました。作陶では粘土を細長い棒状にした後で、器の形を整えていきます。娘のミドリがハートの形が好きなので、私は器をハート形にしました。土で形を作っていくのは、私にもミドリにも楽しい作業でした。ひと月後の焼き上がりが楽しみです。日本の文化でいけばん感心するのは、日常の暮らしぶりです。みんなが法やルールを守るので、毎日を安心して暮らすことができます。今度は、日本人の日常生活を知りたいと思います。

「老人クラブの広報紙づくり、楽しんだ7年間」

辰巳真二さん（彦富町）

彦富町老人クラブには「淳心」という名の広報紙があります。創刊は昭和56年4月1日で、その後今日まで、たびたびの臨時増刊号を交えながら、毎月休まず発行されてきました。

私は4代目の編集者として、平成8年4月1日発行の192号から、7年間担当してきました。手書きの印刷物は時代にそぐわなくなってきたのではないかと考え、3月1日発行の第275号を最後に引退し、後継ぎに託すことにしました。

「淳心」は、彦富町の約350世帯に毎月配布されています。老人クラブの行事の案内や報告、お誕生日を迎える会員さんの紹介、彦根市文化功績者で彦富町在住の小西久二郎先生選の短歌などを掲載し

ていて、たくさんの方が毎月楽しみにしてくれているようです。

私がシャープペンシルで手書きし、それを彦富町公民館の印刷機で印刷していました。手書きは古くさい感じもしますが、読者の中には「暖かみがある」「読みやすい」とほめてくださる方もおられます。そつした声が届みになって、面倒だと思っことはありませんでした。気がつくと、「今度は何を載せようか」と考えていることもよくありました。やはり、広報紙の編集が好きなのでしょう。

今後は、彦富町老人クラブの80歳以上の会員でつくる「和朗会」の活動で、いろいろと新しいことに挑戦していきたいと思っています。



▶ 辰巳さん

▼手書きの文字が個性的だった彦富町老人クラブの広報紙「淳心」

